

刊行にあたって

口腔粘膜疾患は種々の原因、誘因により生じ、極めて多くの病変がありますが、疾患特有の症状を有するものは少なく、臨床診断は必ずしも容易ではありません。病変によってはがんとの鑑別が困難なため、場合によってはがんを口内炎と診断したり、逆に口内炎をがんと診断することもあります。また、診断が遅れた場合には、治療を遷延させる可能性もあります。診断がなされても、医学が進歩したと考えられる現在においても、いまだ未解明の疾患は多く、治療に難渋することも少なくありません。本書では、臨床で遭遇する機会の多い病変、及び頻度は少ないが重要な疾患について概説しました。

本書の構成は、読者が実際の症例に遭遇した場合に診断の参考となるように配慮し、下記のとおりとしました。

- 1章 症状からみた疾患
- 2章 部位に特徴のある疾患
- 3章 感染症
- 4章 口腔がん
- 5章 全身とかかわりのある病変
- 6章 検査
- 7章 他科との連携

本書を最初からお読みいただければ、十分理解していただけるように、概略体系的に記載されています。また、必要に応じて、症状や部位等から本書を見ていただいても、診断や疾患の理解に役立つでしょう。本書の利用の仕方は読者の自由です。ただ言えることは、何度も臨床写真を見て熟読していただくと、口腔粘膜疾患の診断力は必ずや向上し、臨床での即戦力が身につくと確信しております。

以上のような気概をもって、我々は執筆いたしました。明日からの臨床に役に立つよう、歯科・口腔外科の第一線で活躍している読者諸兄の発憤を期待しています。

ご意見があれば、遠慮なくお寄せいただければありがたいです。次回以降の編集に役立てたいと思います。

2010年6月

天笠光雄